

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載  
 【部門区分】第 7 部門第 1 区分  
 【発行日】平成22年10月7日(2010.10.7)

【公開番号】特開2009-87565(P2009-87565A)  
 【公開日】平成21年4月23日(2009.4.23)  
 【年通号数】公開・登録公報2009-016  
 【出願番号】特願2007-251993(P2007-251993)  
 【国際特許分類】

H 0 5 B 3/00 (2006.01)

H 0 5 B 3/10 (2006.01)

H 0 5 B 3/20 (2006.01)

【F I】

H 0 5 B 3/00 3 6 5 B

H 0 5 B 3/10 C

H 0 5 B 3/20 3 4 8

【手続補正書】

【提出日】平成22年8月23日(2010.8.23)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

基材上に、コード状ヒータと、温度を検知する温度検知素子とを配設するヒータユニットの製造方法において、上記基材における所定の位置に圧縮痕を付し、該圧縮痕を目印として上記温度検知素子を配設することを特徴とするヒータユニットの製造方法。

【請求項 2】

上記圧縮痕は、加熱加圧により付されていることを特徴とする請求項 1 記載のヒータユニットの製造方法。

【請求項 3】

上記コード状ヒータを加熱加圧により基材上に配設すると同時に、上記圧縮痕を加熱加圧により付すことを特徴とする請求項 2 記載のヒータユニットの製造方法。

【請求項 4】

基材と該基材に配設されたコード状ヒータとからなる採暖物と、該採暖物の温度を検知する温度検知素子と、を具備したヒータユニットにおいて、上記基材の所定の位置には、圧縮痕が付され、該圧縮痕上に上記温度検知素子が配設されていることを特徴とするヒータユニット。

【請求項 5】

上記基材は、熱融着性繊維を含むことを特徴とする請求項 4 記載のヒータユニット。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 7

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 7】

上記目的を達成するべく、本発明の請求項 1 によるヒータユニット製造方法は、基材上に、コード状ヒータと、温度を検知する温度検知素子とを配設するヒータユニットの製造

方法において、上記基材における所定の位置に圧縮痕を付し、該圧縮痕を目印として上記温度検知素子を配設することを特徴とするものである。

又、請求項 2 記載のヒータユニットの製造方法は、上記圧縮痕は、加熱加圧により付されていることを特徴とするものである。

又、請求項 3 記載のヒータユニットの製造方法は、上記コード状ヒータを加熱加圧により基材上に配設すると同時に、上記圧縮痕を加熱加圧により付すことを特徴とするものである。

又、請求項 4 記載のヒータユニットは、基材と該基材に配設されたコード状ヒータとからなる採暖物と、該採暖物の温度を検知する温度検知素子と、を具備したヒータユニットにおいて、上記基材の所定の位置には、圧縮痕が付され、該圧縮痕上に上記温度検知素子が配設されていることを特徴とするものである。

又、請求項 5 記載のヒータユニットは、上記基材は、熱融着性繊維を含むことを特徴とするものである。